

2018年度 第3回9月 有名大本番レベル模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

D

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 答案の文章が最後まで完結していないもの。

d 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

e 字数指定のある設問で、制限字数の半分に満たない場合は「字数不足」と記し、全体×として、0点とします。この原則と異なる採点をする場合は、採点基準で指示します。

問一 明るい一声

[4点]

問二 (1) イ (2) ホ

[3点×2]

問三 旅行中、お嬢の虚無的な無表情に何度か出くわし、この人の内面におそろしい寂しさが巣くっているように見えたから。(54字)

[8点]

問四 X ニ Y ロ

[4点×2]

問五 ふだんの原さんの心の底にある、わたしに人間の罪を思わせるような何かを、のぞき見た気がしたから。(47字)

[8点]

問六 わたしという人間が、自分の子を意外とあっさり捨ててしまうことができる非情な人間ではないかという不安。(50字)

[8点]

問七 ニ・ホ (順不同)

[4点×2]

【計50点】

問三 旅行中、お嬢の虚無的な無表情に何度か出くわし、この人の内面におそろしい寂しさが巣くっているように見えたから。(54字)

[8点]

A [4点] 旅行中、お嬢の虚無的な無表情に何度か出くわし、

- (1) 「虚無的な無表情」がなかった場合、Aは無得点。
- (2) 「旅行中」がなかった場合、減点1点。
- (3) 「何度かでくわし」か、それに類する表現がなかった場合、減点1点。

B [4点] この人の内面におそろしい寂しさが巣くっているように見えたから。

- (1) 「恐ろしい寂しさ」がなかった場合、Bは無得点。
- (2) 「寂しさ」に「恐ろしい」が付いていない場合は、減点1点。
- (3) 「内面に」のような表現がない場合、減点2点。

問五 ふだんの原さんの心の底にある、わたしに人間の罪を思わせるような何かを、のぞき見た気がしたから。(47字)

[8点]

A [2点] ふだんの原さんの心の底にある、

- (1) 「原さん」の名がない場合、Aは無得点。
- (2) 「心の底」は「内面」などでも可。これがない場合、Aは無得点。

B [3点] わたしに人間の罪を思わせるような何かを、

(1) 「人間の罪」は単に「罪」でも可。

C〔3点〕のぞき見た気がした

(1) 「垣間見た」「気づかされた」などは可。「内面に」ふれた」では、表現が弱いため減点1。

問六

わたしという人間が、自分の子を意外とあっさり捨ててしまうことができる非情な人間ではないかという不安。(50字)

〔8点〕

A〔4点〕わたしという人間が、自分の子を意外とあっさり捨ててしまうことができる

(1) 「わたし」が「子」を「捨てる」の3点の語がない場合、Aは無得点。

(2) 「あっさり」か、それに類する語がなかった場合は、減点1。

B〔4点〕非情な人間ではないかという不安

(1) 「非情」は「薄情」「残酷」「冷酷」「冷たい」なども可。

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- ※解答通り
- 1 太鼓判
  - 2 駆 (「駈」も可)
  - 3 情動
  - 4 遠因

問二 5点

二

※解答通り

問五 5点

BならばA

※解答通り

問三 6点 (模範解答例)

A ○2点

飛行機事故や原子力発電を恐れる喫煙者が、

B ○2点

それよりも確率的には圧倒的に損失余命が長くリスクの大きい喫煙を

C ○2点

恐れないから。

(58字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「飛行機事故や原子力発電を恐れる喫煙者が」(2点)

※飛行機事故や原発事故を恐れる喫煙者がいることの説明(第二段落より)。

△「起きる可能性の低い飛行機事故や原発事故」について触れているものは、損失余命の観点を読み落としているので▲1点減点で△1点。

B 「それよりも確率的には圧倒的に損失余命が長くリスクの大きい喫煙を」(2点)

※損失余命の観点で、飛行機事故などより喫煙のリスクが大ききことの説明(第二段落より)。

△「次第に余命を奪う喫煙」としているものは、損失余命についての観点が抜けているので▲1点減点で△1点。

△「死亡するリスクの高い喫煙」としているものは、損失余命についての観点が抜けているので▲1点減点で△1点。

C 「恐れないから」(2点)

※AとBを比較して、Bを恐れないこと、Aを恐れること、の指摘。

○(Bを恐れないこと)「無頓着だから」も可。

○(Aを恐れること)「敏感だから」も可。

問四 6点 (模範解答例)

A ○2点

一回きりの人生の中で自分がリスクを負う対象となった場合、

B ○2点

リスクの確率が極めて低いことは

C ○2点

何の意味も持たないということ。

(58字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「一回きりの人生の中で自分がリスクを負う対象となった場合」(2点)

※「一回の人生」で「後遺症が残ったら」ということを一般化した言い換え。

△「一回しかない人生で」は、「後遺症が残ったこと」に触れていないので▲1点減点で△1点。

B 「リスクの確率が極めて低いこと」は(2点)

※「後遺症が残ること」の「確率が低いこと」を一般化した説明。

△「確率、普遍法則、統計」は、「(それらが)低いこと」について触れていないので▲1点減点で△1点。

C 「何の意味も持たない」と「」(2点)

※「何の慰めにもならない」の言い換え。

○「無力だということ」、「本人にとって重大であることに変わりはない」も可。

A ○2点

刺激等価性は、共感力と結びついて、

B ○3点

特殊な大災害などの事例を概念化させ、

C ○3点

身近に起こり得るものだとする非論理性を生み、

D ○3点

同時に、具体的な視覚情報と音声言語・文字言語を対応させ、

E ○3点

そこから生じた概念同士を結びつける洗練された論理も生んだということ。

(119字)

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 「刺激等価性は、共感力と結びついて」(2点)

※傍線部「共感能力と関連している」とあることから、その部分について説明。

B 「特殊な大災害などの事例を概念化させ」(3点)

※「大災害」の話題に即し、「身の回りで起きたことのように共感することの説明。

△「同程度に起こるように思っ」や「区別が難しく」は、「概念化させる」の意味に関連しているので  
1点減点で△2点。

△「感情移入しすぎて」や「共感して」は、「概念化させる」ことを的確に説明できていないので  
1点。

C 「身近に起こり得るものだとする非論理性を生み」(3点)

※「言語」との対比で、こちらは「非論理的」なものであることの説明。

△「思考が曖昧になる」や「よくありそうだと思う」は、「非論理的」であることを的確に説明できてい  
ないので▲2点減点で△1点。

D 「同時に、具体的な視覚情報と音声言語・文字言語を対応させ」(3点)

※「言語」の話題に即し、『赤い果実』と『りんご』の結びつき「があること」の説明。

△「視覚情報から音声言語への対応をつける」は、「文字言語」に触れていないので▲1点減点で△2点。

△「あることと別のことを対応させ」は、一般化してしまっているため▲2点減点で△1点。

△「言語と結びつき」は、何が結びついているか不明なので▲2点減点で△1点。

E 「そこから生じた概念同士を結びつける洗練された論理も生んだということ」(3点)

※「大災害」との対比で、こちらは「論理的」なものであることの説明。

△「概念、論理、レトリックを生んだ」は、まとめ過ぎと考えて▲1点減点で△2点。

△「論理が生じた」は、「概念を結びつける」ためのものであることが不明瞭なので▲2点減点で△1点。

問七 6点 (模範解答例)

A ○2点

刺激等価性による概念化という同一の作用によって

B ○2点

非論理性と論理性という相反する性質が

C ○2点

人間にもたらされたということ。

(57字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「刺激等価性による概念化という同一の作用によって」(2点)

※「刺激等価性」の基本的な性質の説明。

△「刺激等価性は」は、それが「概念化」の働きをすることについて触れていないので▲1点減点で△1点。

B 「非論理性と論理性という相反する性質が」(2点)

※「刺激等価性」がもたらした二つのことを説明。

○「非論理性と論理性を」も可。

C 「人間にもたらされたということ」(2点)

※「人間の本质」に関わることについての指摘。



**三**

**問一**

- Ⓐ きちよう
- Ⓑ のうし
- Ⓒ さしぬき
- Ⓓ も (1点×4)

**問二 (4点×2)**

**問一・A・模範解答例**

a (1点) b (1点) c (1点) d (1点)  
 そうは言ってもやはり 関白様を見たかったのであるようだ、(4

点)  
**【各部の採点】 4点満点。加ポイント4箇所。**

- a 「そうは言ってもやはり」…1点。「やはり」だけではダメ。
- b 「関白様を」…1点。対象の明示。「道隆殿に」「殿のお姿を」も可。
- c 「見たかった」…1点。「見たい」という「見る＋願望」の意。「逢いたい」はダメ。
- d 「のであるようだ」…1点。断定＋推量の意。「たのだろう」でも可。

**問二・D・模範解答例**

a (1点) b (1点) c (2点)  
 伊周様が早く立ち去りなさってほしい。(4点)

**【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。**

- a 「伊周様が」…1点。対象の補足。「大納言殿が」でも可。
- b 「早く」…1点。「早く」「すぐに」の解釈。
- c 「立ち去りなさってほしい」…2点。尊敬＋他への願望。完答。

**問三**

- ① (1) ハ (2) □↓ハ
- ② (1) イ (2) ニ↓ハ
- ③ (1) □ (2) ニ↓□
- ④ (1) イ (2) ニ↓□

(1) 各1点×4

(2) 完答各1点×4

問四 1 ハ 2 ニ 3 イ 4 口  
(各2点×4)

問五 口 (6点)

問六 (8点)

a (1点) b (3点)

問六・模範解答例

清少納言の、遠くから見ていてさえ気おくれする大納言と

c (3点)

d (1点)

直接向かい合って、恥ずかしくてたまらない心情。(四九字) (8点)

【各部の採点】 8点満点。加ポイント4箇所。

a 「清少納言のく大納言に対する」…1点。主体と客体の補足。「筆者のく伊周に対する」でも可。

b 「遠くから見ていてさえ気おくれする」…3点。「離れて見てるのでさえ気後れする」のニュアンス。「几帳を隔ていても気後れする」は2点。マイナス1点。

c 「直接向かい合って恥ずかしくてたまらない」…3点。「面と向かっているのも恥ずかしい」の意。「面と向かっていると気が動転する」も可。「顔をつきあわせると現実とは思われないほどの」も可。

d 「心情」…1点。文末処理。ただ、この箇所が正解だけでは零点。

問七 ハ (6点)

問八 口・ホ (順不同) 各1点

四 (漢文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 2 × 4 = 8 点

模範解答

a 〓よりて (よつて)    b 〓たちまち    c 〓つきて    d 〓ために

採点基準 送り仮名の無いもの0点。

問二 4 点

解答

〓 二

問三 5 点

解答

〓 八

問四 5 点

a 1 点    b 1 点    c 2 点    d 1 点

模範解答1 どうして 必ずしも 戴に会う 必要があるうか、いや会う必要はな

い。

b 1 点    c 2 点    e 2 点

解答2 「必ずしも 戴に会う 必要はない」

採点基準

「a d」または「e」で、反語表現が示せていれば2点。

a. 「なぜ」は可。

・ 「どうやって」「は不可。

c. 「戴安道に会う」も可。

d. 「ことがあるうか、いや会わない」も可。

・ 「ことはあるうか、いや会う必要はない」も可。

・ 「ことはあるうか、いやない」も可。

・ 「必要があるか、いやない」も可。

・ 上に「必ずしも」がなく、「会わない」と言い切るものは不可。

e. 上に「必ずしも」があれば「ことはない」も可。

問五 5点

a 1点

b 1点

c 2点

d 1点

解答

|| ⑤ |

問六 5点

解答

|| 七言律詩

採点基準 ・「詩」を「詞」にするもの2点減点。

問七 4点

解答

|| 口 |

問八 5点

解答

|| 須下 向ニ 山陰一 入中 小舟上

採点基準 ・送り仮名、句読点をつけたもの…減点2点

問九 9点

a 1点

b 1点

c 2点

模範解答

|| 浣花溪での 穏やかな生活の中で、雑事に煩わされることな

く、

d 1点

王子猷のように 感興のおもむくままに

e 1点

f 3点

自由に生きたいという心境。

採点基準

- ・ 四〇字以上を必要とする。満たないものは0点。
- a・「自然の美しい場所（土地）」で「静かな場所」なども可。
- b・「静かな生活」「のんびりとした生活」など可。
- c・「俗世を離れ」など可。
- e・「興に乗じて」も可。

f・「自由奔放」「自由気まま」など可。